

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 7 月 29 日 9:34AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 38,500～43,000 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 37,500～45,500 ドル
(S&P500) 5000～6500

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 20,000～23,560
(ナスダック総合) 18,000～21,500

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 130.000～151.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

(おしらせ) 次回号は 8 月 5 日(火)にリリース予定です。

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

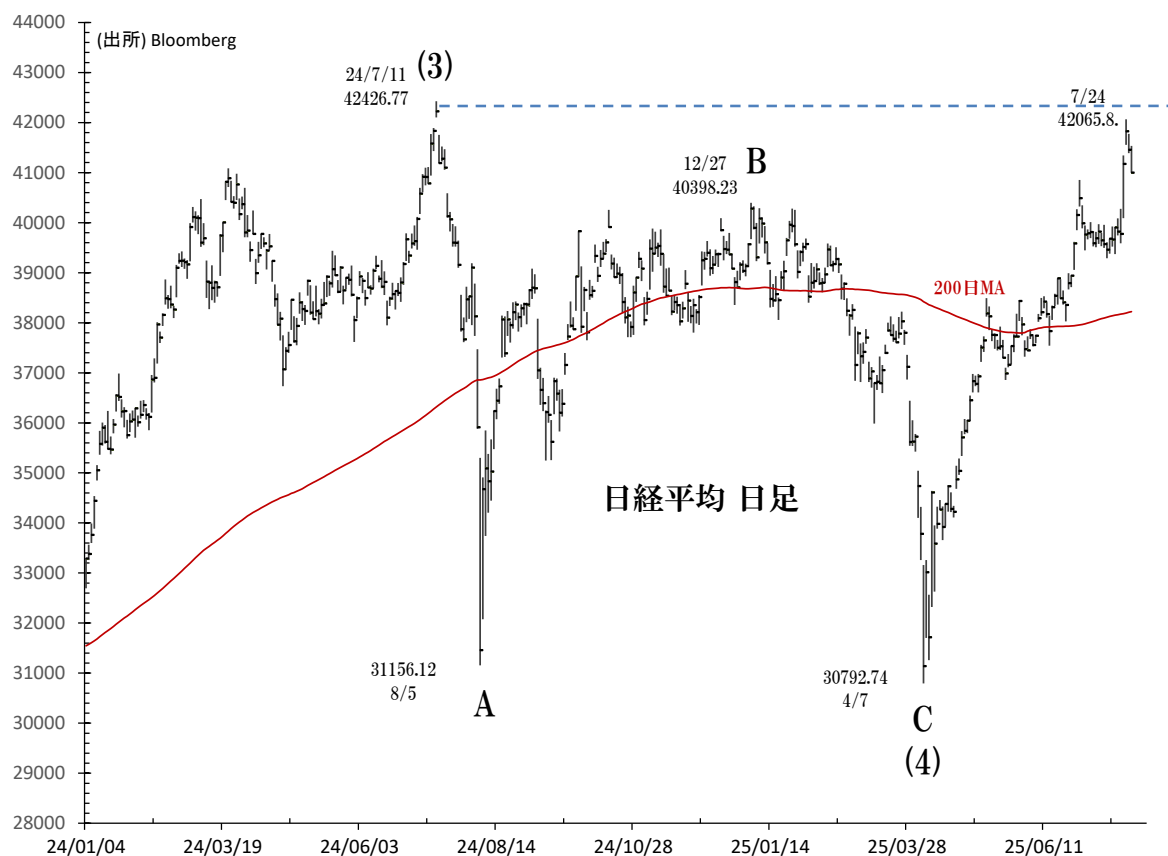
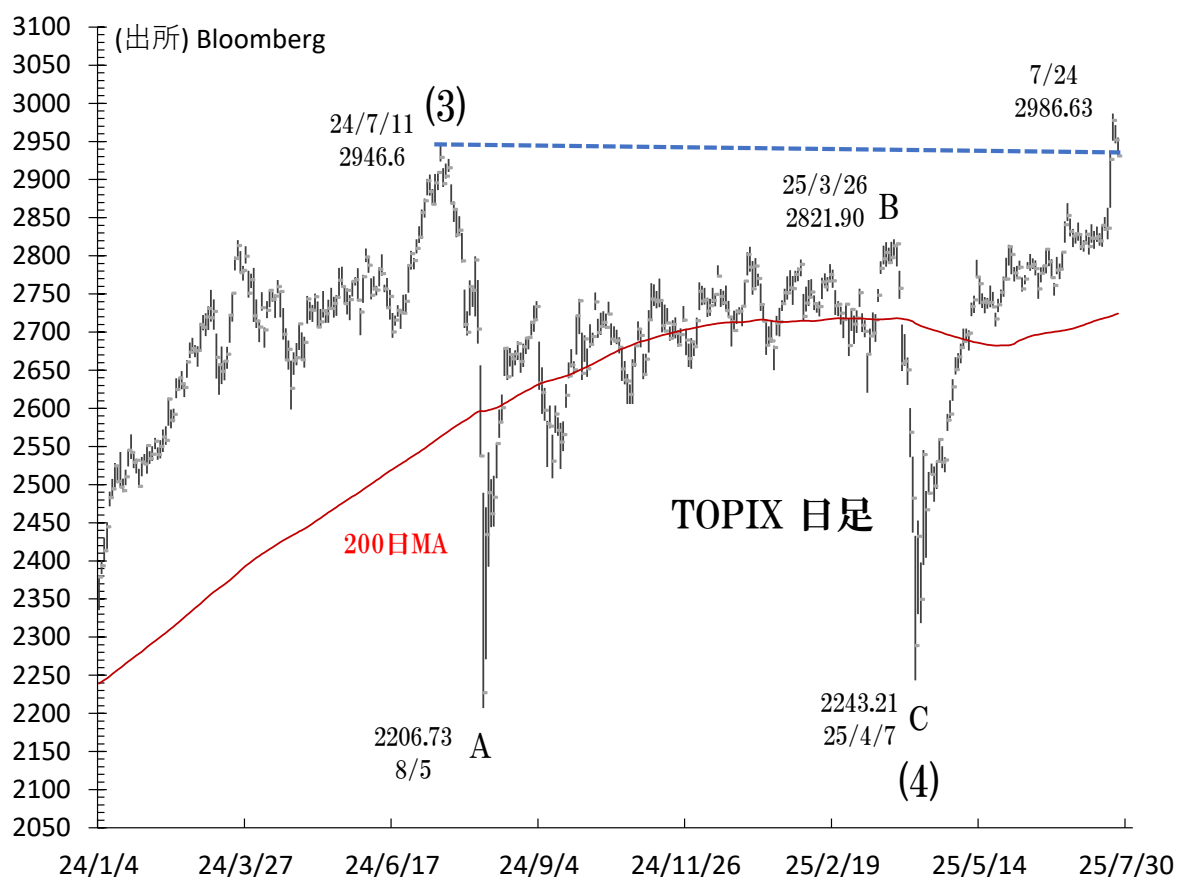
日経平均は 20 年 3 月コロナショック底(16,358.19 円)を起点とする、プライマリー上昇③波が進行中です。さらに今年 4 月安値(30,792.74 円)からはインターミディエイト級第(5)波の上昇にあります。

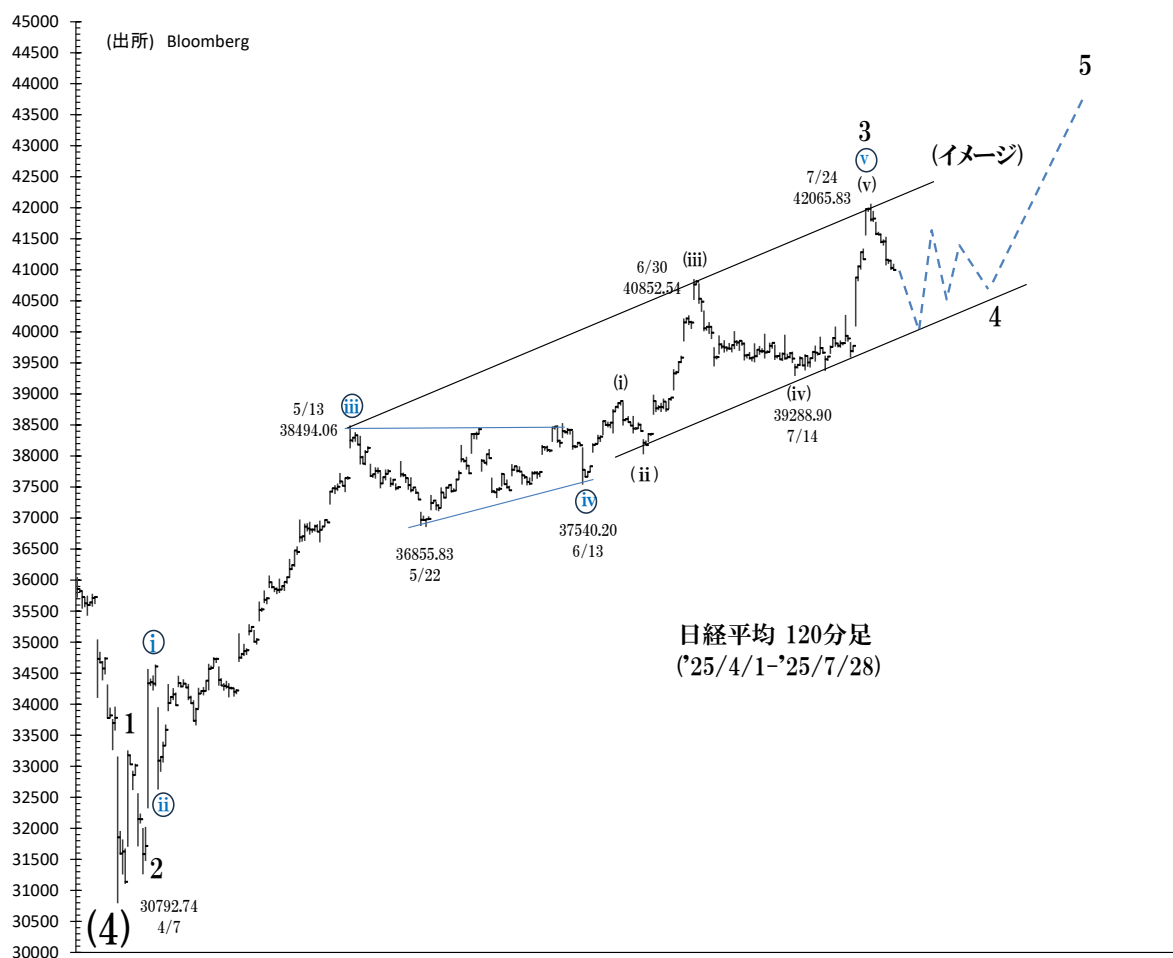
この第(5)波の上昇を以て、プライマリー③波は完成します。

筆者は日経平均が、24 年 7 月高値(42,426.77 円)を 8 月中にも上抜くと予想していましたが、最高値更新はさらに早まるかもしれません。7 月 24 日に TOPIX は最高値を更新し、この日は日経平均が一時 4 万 2000 円を回復しています。

7 月第 3 週(14~18 日)まで海外投資家は現物を 16 週連続で買い越しました。アベノミクス相場の始まりの時期に重なる 2012 年 11 月~13 年 3 月(18 週連続)以来、約 12 年ぶりの長さとなりました。

7 月 24 日にはドル建て TOPIX も最高値を更新しています。海外投資家は日本株を長らくアンダーウェイトしており、「持たざるリスク」から日本株再評価の機運が高まっているとみられます。





【日足・時間足 エリオット波動分析】

[TOPIX]

7月24日に一時2986まで上昇、初の3000台が見えてきました。フィボナッチ比率に基づく①[3164]、②[3323]などが導かれ、第(5)波の目標値として注目されます。

[日経平均]

7月24日は一時42,065円まで上昇し、24年7月高値(42,426円)打診が目前となりました。

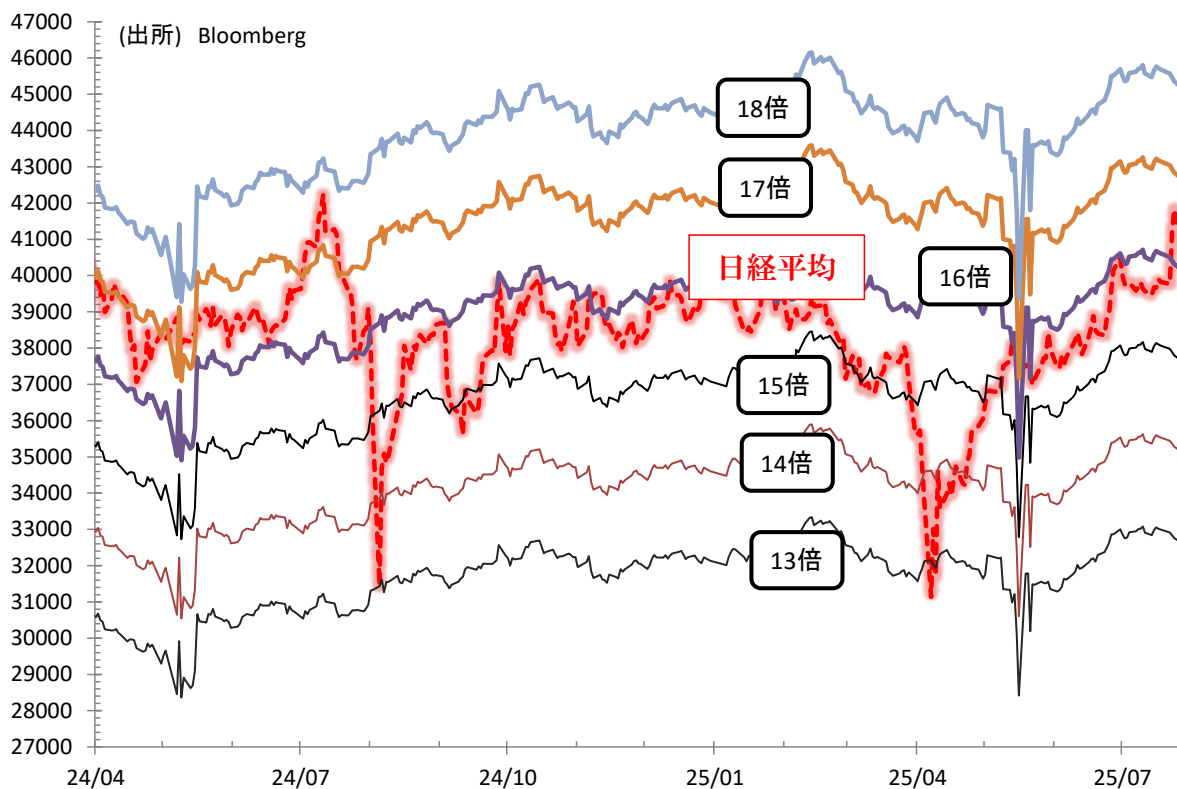
現在、マイナー級の第4波による調整が進行中とみています。第4波は保ち合い型調整になりやすく、トライアングルやフラットといった、当面はレンジ相場(「夏枯れ相場」のような全般盛り上がりには乏しい地合い)となりそうです。直近の株価急上昇で騰落レシオや移動平均かい離など短期的な過熱感がみられますので、それら指標の落ち着きを待つ時間が少し必要かもしれません。時間足チャートには、トライアングルのケースを描いています。

第4波が終わると、次に第5波の上昇となります。

TOPIXの目標価格(上述)、現在のNT倍率(14倍)、これらに基づく[44,300円~46,500円]が、第5波目標となります。さらにフィボナッチ比率に基づく、[44,597円][45,230円]などが得られます。

[予想 PER 別の日経平均水準]

7月28日の日経平均予想 PER は 16.36 倍・予想 EPS は 2506 円。今年2月13日には過去最高の EPS・2564 円を記録しています。



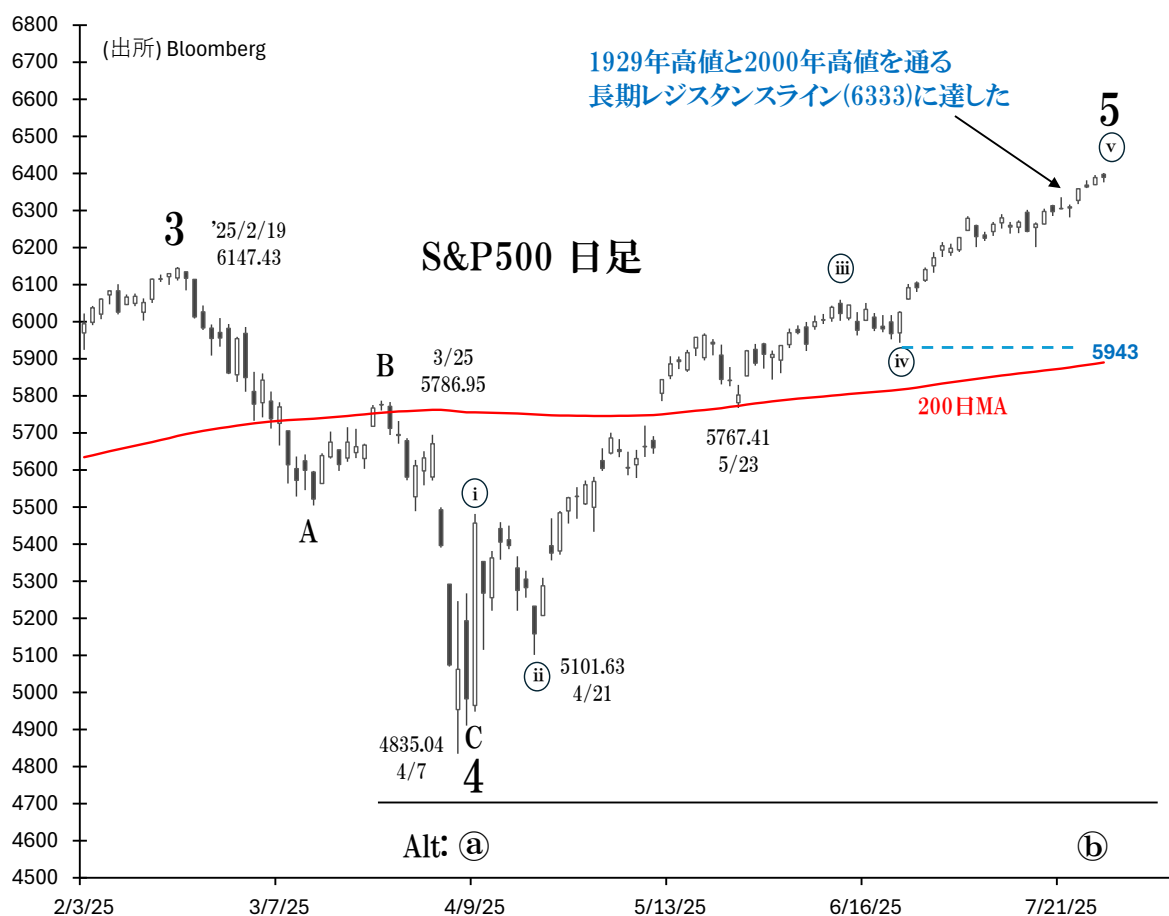


22 年 10 月安値(28,660ドル)からの(B)波による上昇は今年 1 月高値(45,054ドル)で終わり、以来、C 波による下落局面です。足元、C-(2)波完了を見極める局面が続いています。今後は C-(3)波の下げにより、4 月安値(36,611ドル)を大きく下回る展開が想定されます。

(オルタナティブ・カウント)

あるいは S&P500・ナスダックで検討しているごとく、4 月からの上昇を「トライアングル」における⑥波とカウントすることもできます。

上記波動カウントの正否はすぐに判明しませんが、少なくとも当面の高値を付けつつあること、相応の調整入りが近い、などの点で一致しています。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

1929 年と 2000 年の高値を通る、過去 100 年近くにわたる超長期レジスタンスラインは今年 7-9 月 [6333]に位置します。指数は同ラインに 7 月 21 日に到達しましたが、まだ上げ止まる気配はありません。これは「スローオーバー」の可能性があります。ちなみに昨年 12 月に S&P500 は同ラインに達し、今年の 4 月まで 21%下げました。

FactSet によれば、S&P500 の(12 カ月先)予想 PER は 22.4 倍(7/25 時点)、21 年 4 月の水準に並びました。これは 5 年平均(19.9 倍)より 12.5%、10 年平均(18.4 倍)からは約 22%、各々「割高」水準です。ひとたび調整入りとなれば、10%~20%の調整は普通に起きることでしょう。

【S&P500 長期エリオット波動分析】

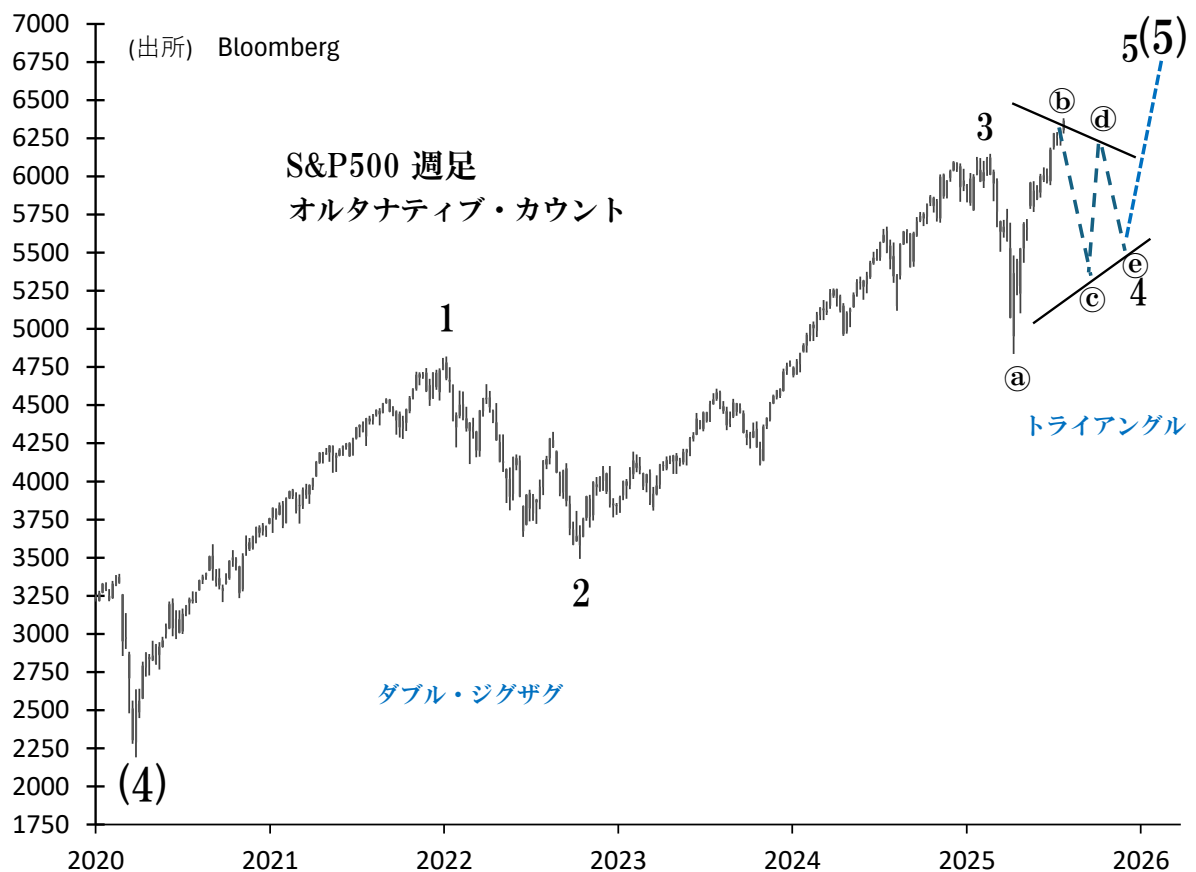
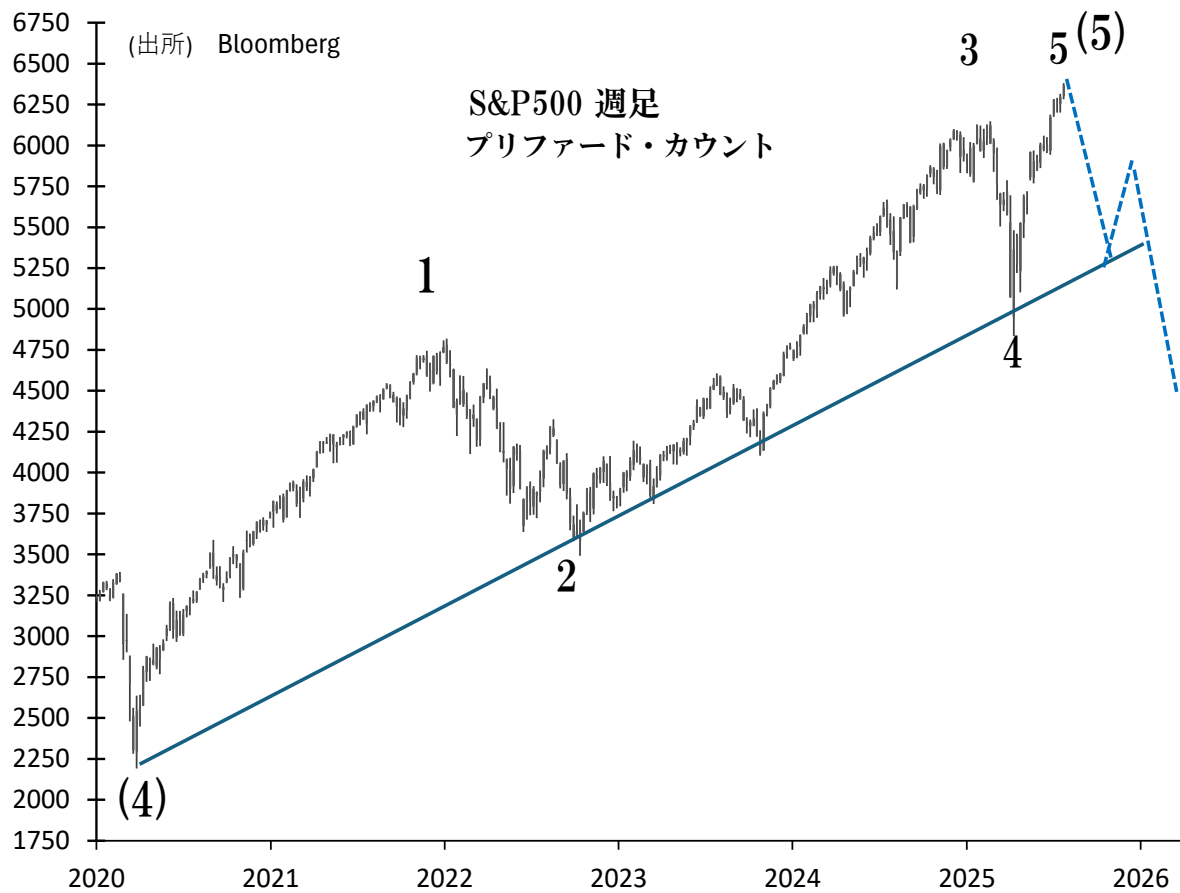
(プリファード・カウント)

4 月安値(4835) からの上昇は、インターミディエイト級第 5 波に位置付けられ、それが終わると長期にわたる調整スタートとなります。それは 4 月安値を大きく下回ることが予想されます。

(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は、トライアングル中⑥波のリバウンドに位置付けられます。

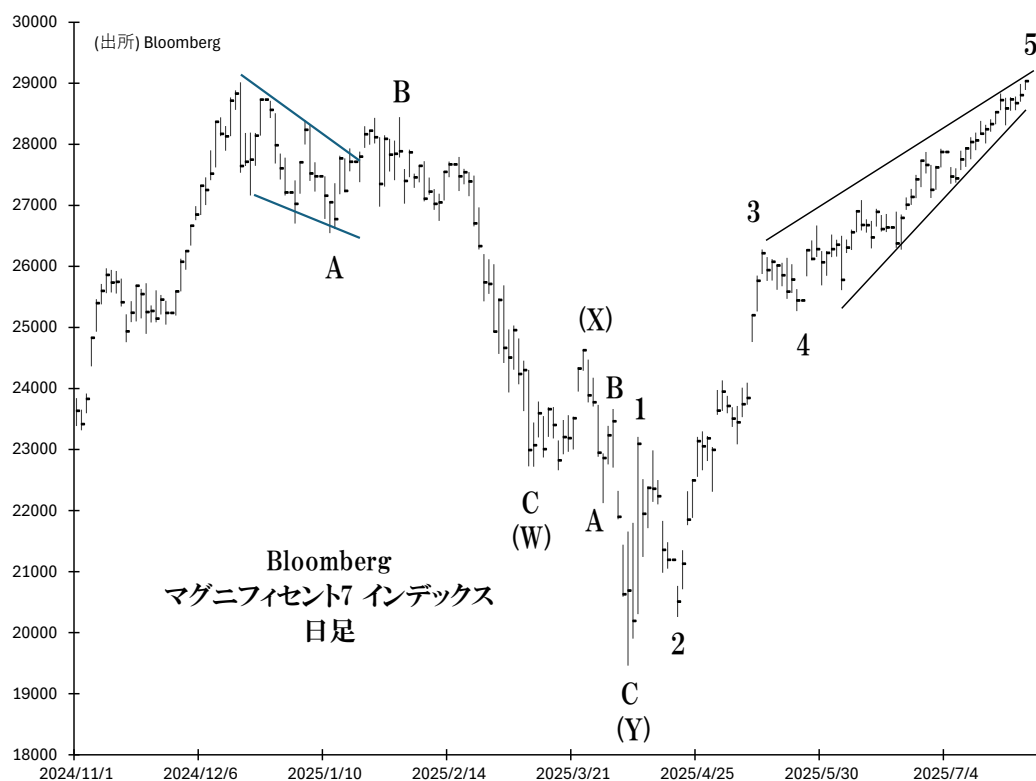
近々⑥波の下げがスタートするとみられ、それは②波(2 月~4 月)下げ幅に対し、62%~66%の大きさ(813~866 ポイント)になるでしょう。そうすると⑥波により S&P500 は 5400 を下回る展開になりそうです。



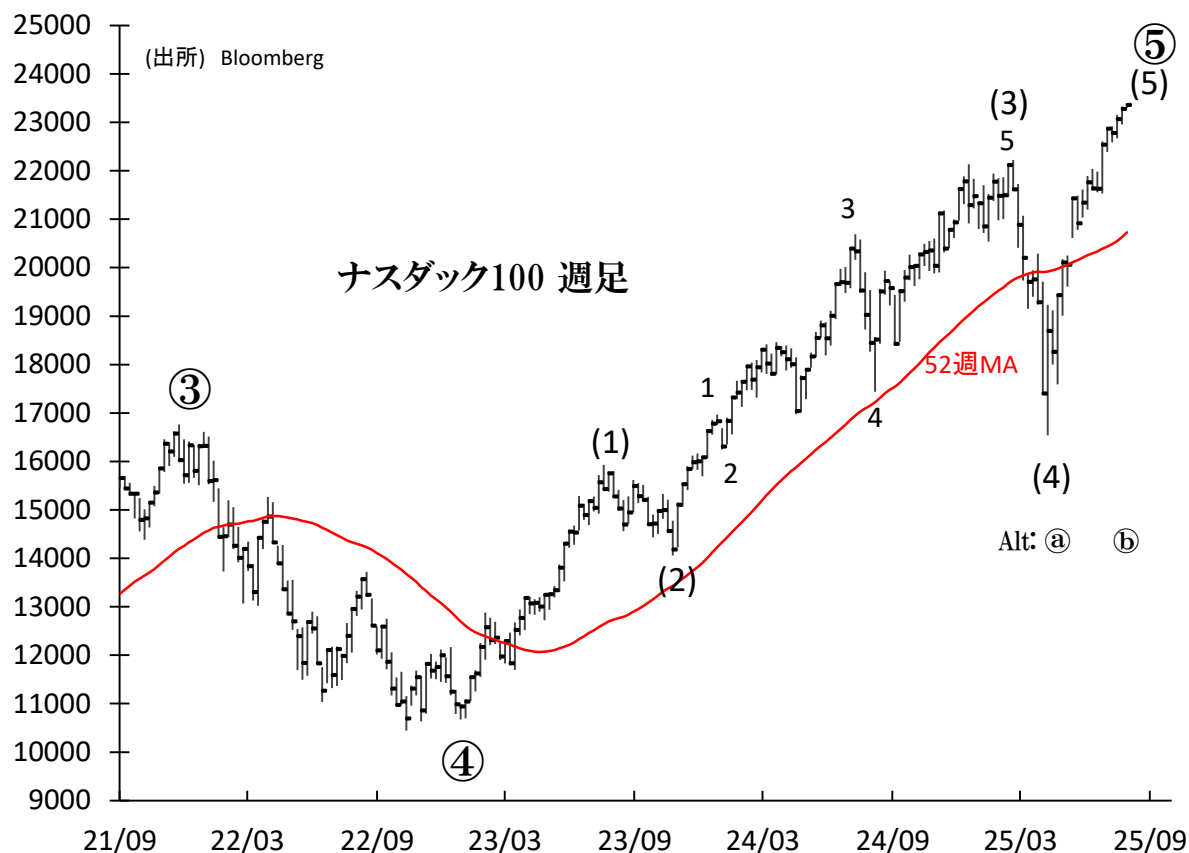
【ダウ輸送株平均】 第(1)波の 76.4%戻り水準に近づく



【マグニフィセント7】 波動カウント変更、4 月安値からの上昇は 5 波構成



ナスダック



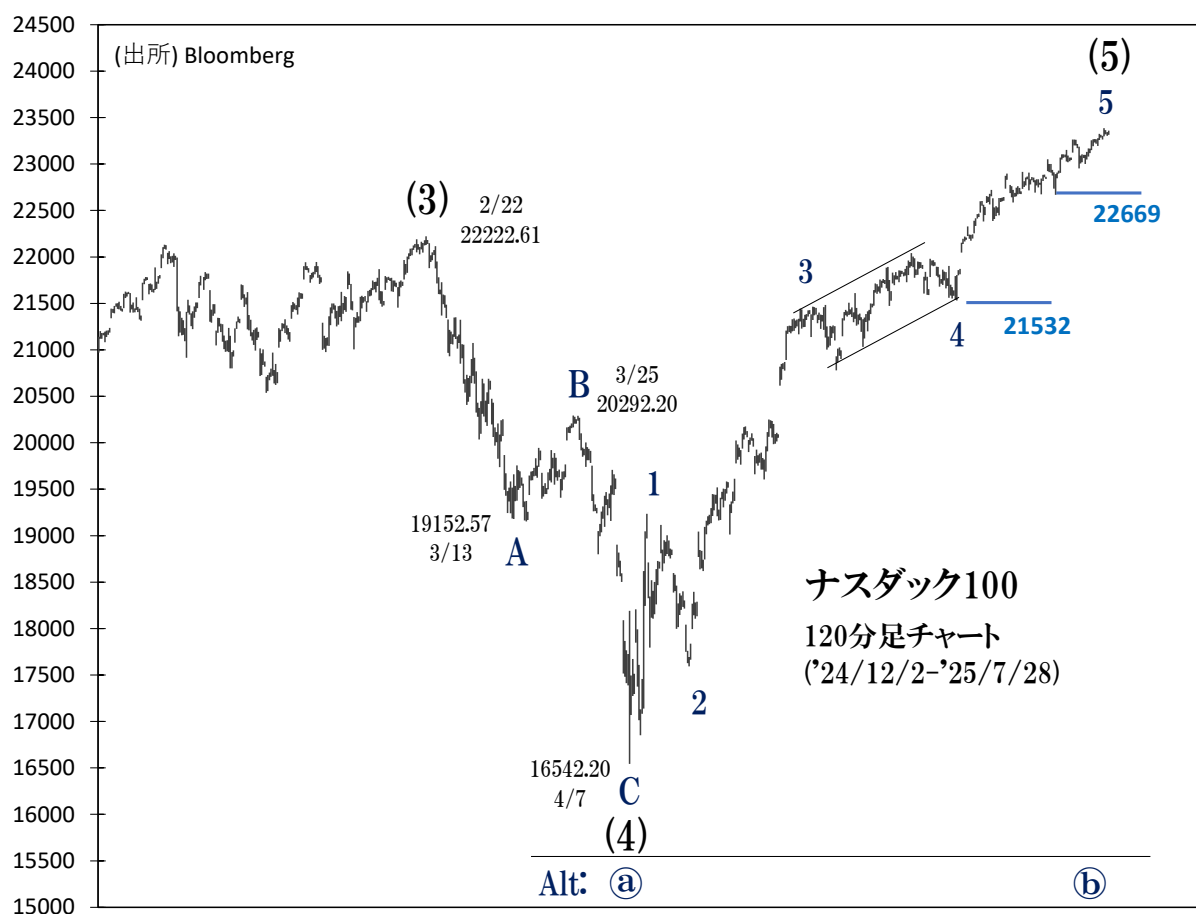
【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

(プリファード・カウント)

4 月安値 (16,542) からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波の上昇に相当します。既に最高値を更新しており、第(5)波はいつ終わってもおかしくありません。遠からず調整局面が始まるとみられ、それは数年間ターム続く、長く大きなものになるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「(ランニング)トライアングル」中㉔波に当たります。これは S&P500 のオルタナティブ・カウントと同様であり、遠からず㉓波の下落に入る見通しです。これによると今後の調整規模は、想定されるシナリオではもっとも小さいと想定されます。それでも㉓波の下げ幅は㉔波のそれに対し 62%~66% となり、㉔波の高値からは 3500~3750 ポイントの下げになるでしょう。



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

4 月安値 16,542 からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波、あるいは、第(4)波「トライアングル」中⑥波とみられます。

7 月 28 日には一時 23,386 まで上昇し最高値を更新しました。

既にフィボナッチ比率からの上値想定レンジ[23,195-24,224]内に入っています。

22,669 を下回ると最初の弱気トリガーが発動します。この場合、ナスダック 100 は当面 21,532 を目指す調整に入った可能性があります。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

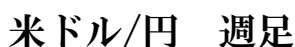
151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、まずは 2011 年からの上昇チャネルのセンターライン①137.445 円(8 月)がサポートレベルとみられます。

もっとも 139 円処を下抜くとヘッド・アンド・ショルダーズ型の天井パターンから明確に下放れ始め—上述したセンターラインで底入れせずに—フィボナッチ・サポートの[128.945 円]を試すと思われます。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は 117.820 円(8 月)です。

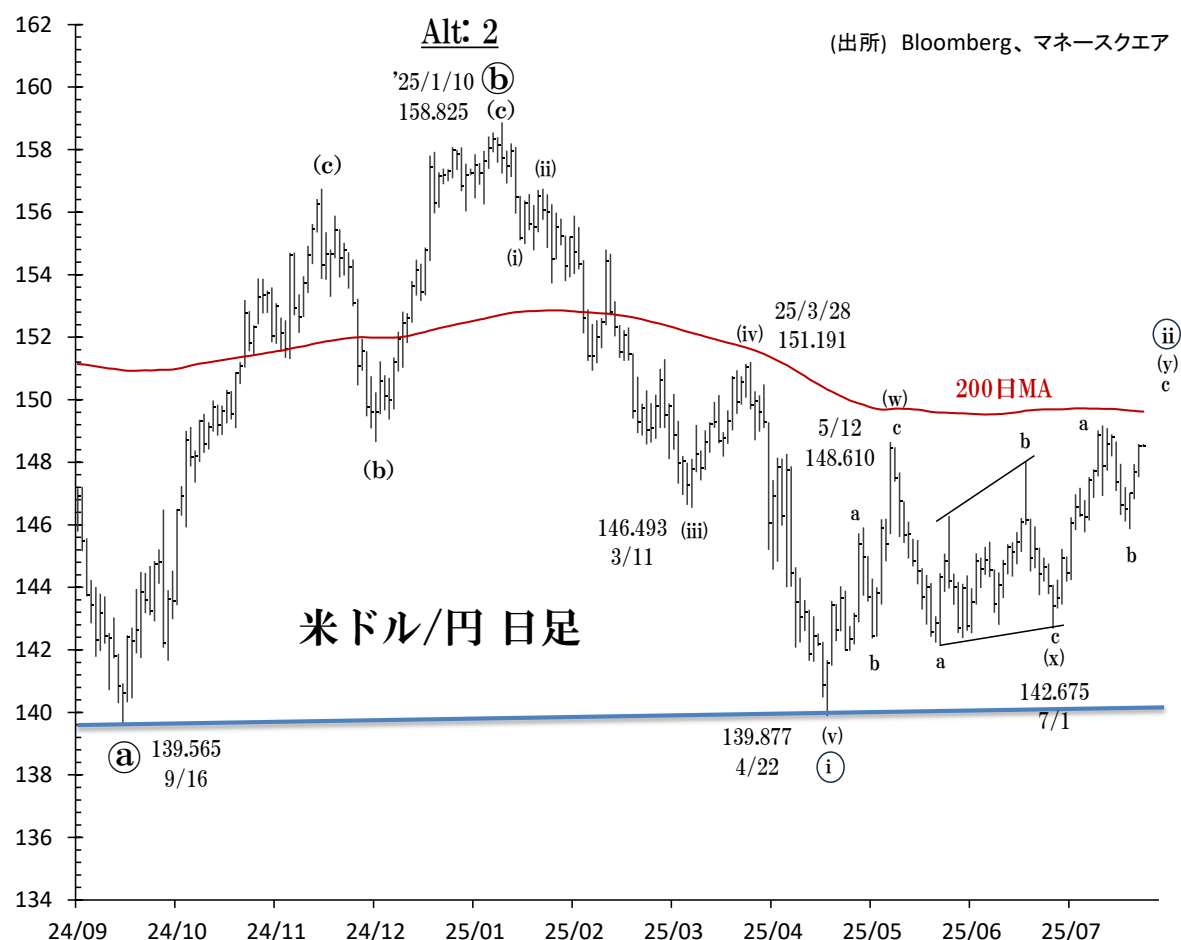


161.938 円(24/7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドが進行中です。この C 波は(先ずは)三波構成 (a-b-c) が想定され、158.825 円(1/10)から C 波によるドル安・円高が進行中とみられます。

今年 1 月からのドル安・円高を、第 3 波による下落とみることもできます。現時点でサブシナリオですが、これによれば、先々 1 ドル＝120 円試しが視野に入ります。第 1 波と第 3 波が黄金分割(1:1.618)比率関係になると仮定すれば、[122.625 円]という目標値が得られます。

4月下旬以降のドル/円上昇は㊟波中マルⅡ波に位置付けられ当面150円～151円を伺う展開が続くでしょう。この見方は、今後数カ月のドル指数上昇という見通しと整合的です。

もっとも中長期でのドル安・円高基調に変わりはなく、ヘッド・アンド・ショルダーズの垂直目標値からは、いずれ1ドル=120円割れの可能性もみえています。



【日足 エリオット波動分析】

139.877 円(4/22)以来のマル ii 波によるリバウンドは、「ダブル・ジグザグ」(w)-(x)-(y)により継続中とみています。

142.675 円(7/1)からのドル高円安は(y)波です。さらに 145.847 円(7/24)からのドル/円上昇は(y)波中。波に位置付けられ、それは短期的にも[149.153 円(7/16)~[149.351 円](1 月からのドル/円下落の半値戻り水準)と 200 日 MA(149.620 円)を試すでしょう。

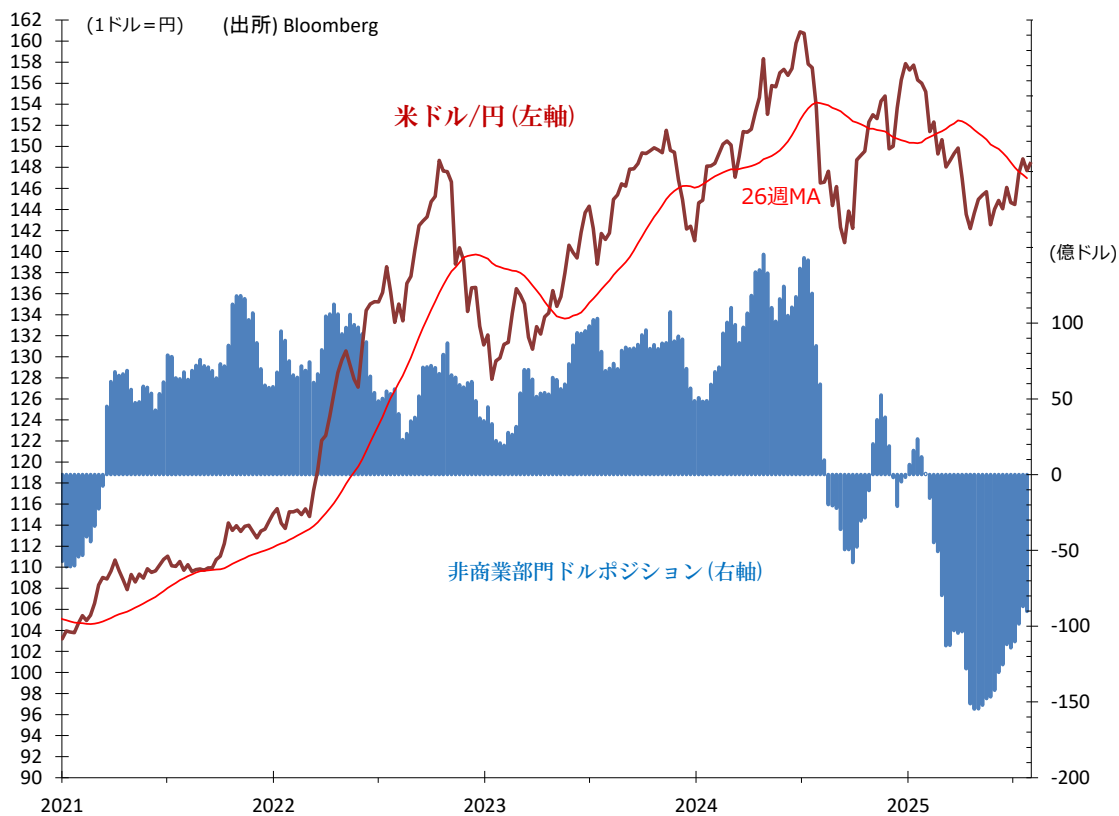
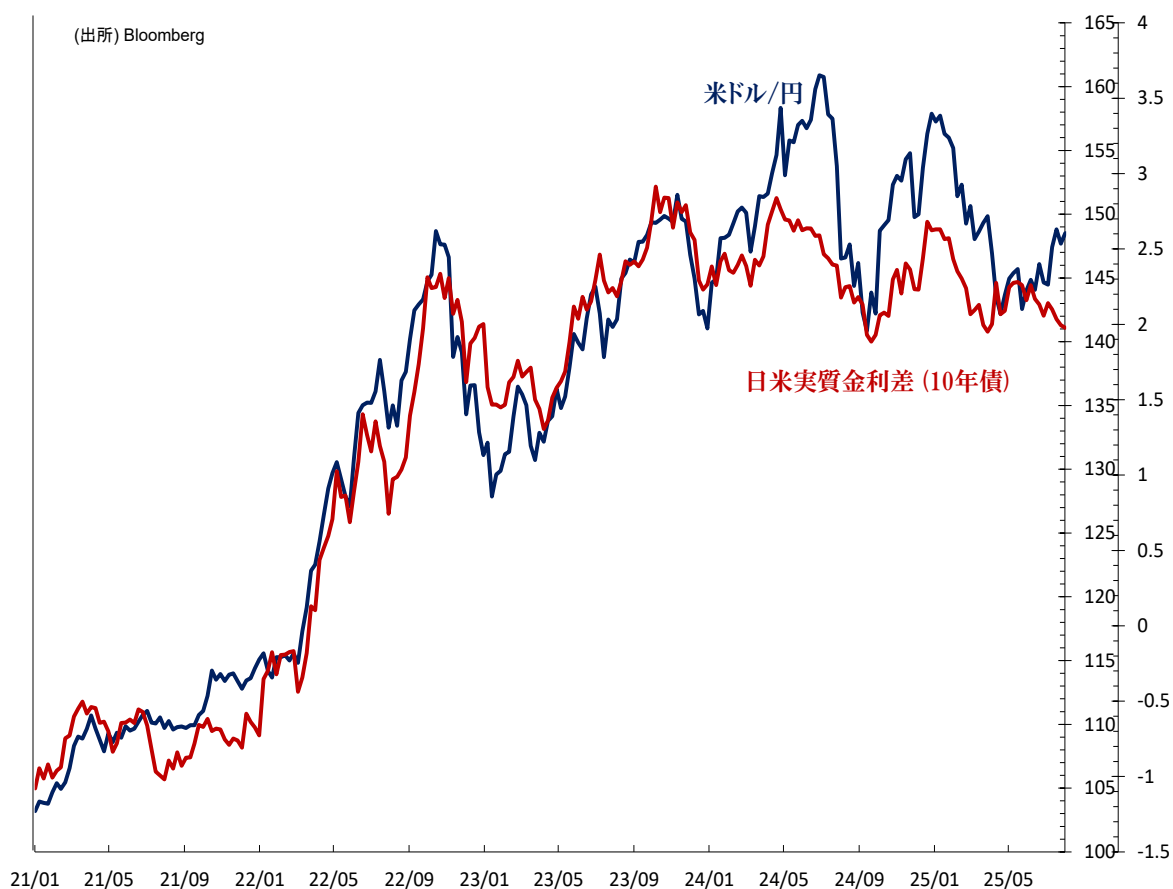
これら 149 円台の節目を抜け 150 円台を回復すると、次は[151.408 円] ((w)波と(y)波が等しく上がる水準)や、[151.586 円](1 月からの円高の 61.8%戻り水準)などを打診することになりそうです。

金利差からのドル/円推計値

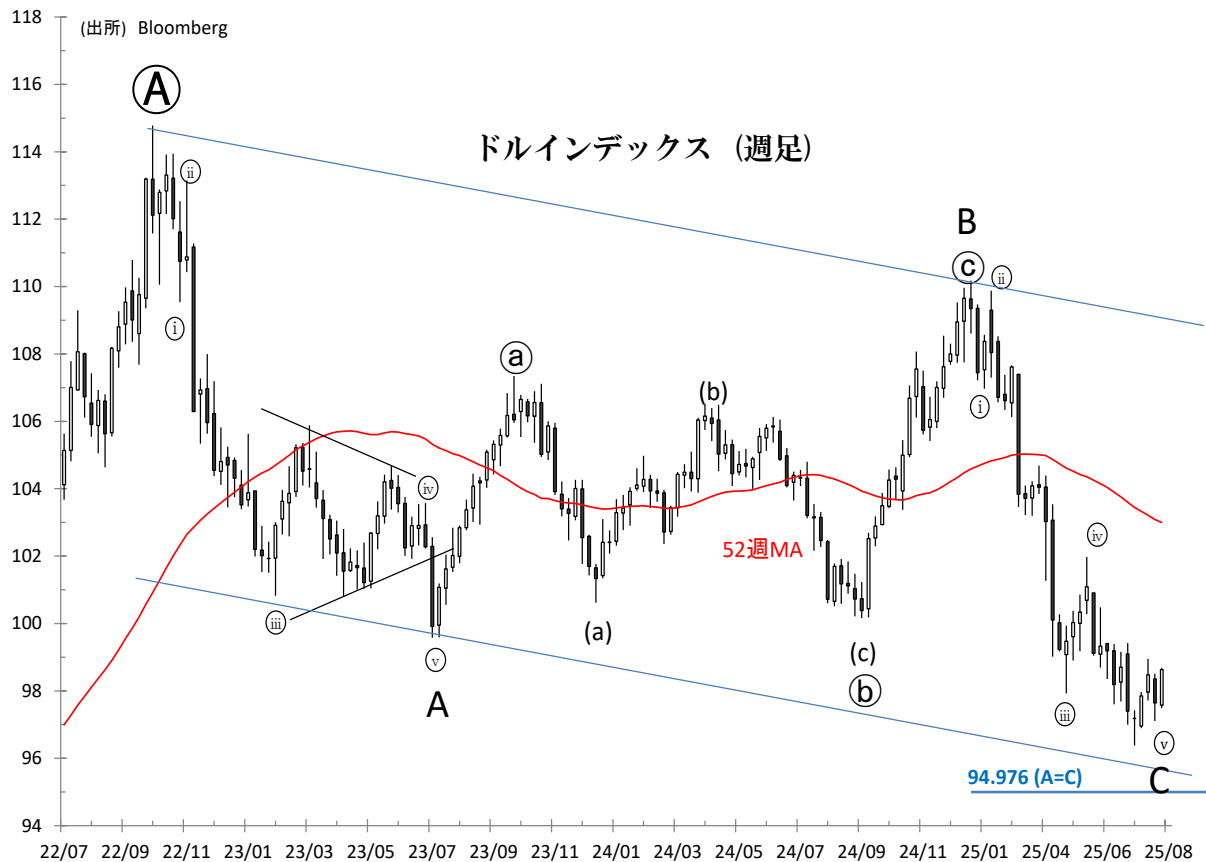
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[143.368 円]です。

投機筋の円買い持ち高が 4 週ぶりに拡大(2025 年 7 月 22 日時点)

IMM 通貨先物市場で投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 87.0 億ドルから 90.26 億ドルへ 4 週ぶりに拡大しました。



ドルインデックス (ドル指数)



【エリオット波動分析】

年初から半年近く続いたドル安 C 波は 96.377(7/1)で終わった可能性が高いでしょう。それは、22 年高値からのジグザグ(A-B-C)の完成を意味するものです。

今回のジグザグ完成を以て、22 年高値からのドル安③波のすべてが終了した、とはみていません。筆者は③波は短くとも 2028 年頃まで続くともっています。

この見方通りだとすると、足元始まったドル高は(X)波に位置付けることが適当です。③波全体はおそらく「ダブル・ジグザグ」((A-B-C)-(X)-A-B-C))を描いていくでしょう。

因みにドル指数は、8 月から 11 月まで強くなる季節性があります。ここからすると、ドル高は今後 3～4 カ月続く可能性があり、それは当面 101.977(C 波レサードイグリー・マル iv 波頂点)を目指すでしょう。

なお可能性は小さくなりましたが、ここから何らかの拍子に 96.377 を下回るケースでは、当然 C 波が続いていることになります。この場合は 94.976 を目指すでしょう。これは、A 波と C 波が等しく下がる水準のことです。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社は、その正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
